



テレビの音を変える。ブルーレイの音をフルに引き出す さらに3D映像伝送にも対応した、ミニマムなシアターシステム

HTX-22HDX

HTX-22HDXは、サラウンドアンプ内蔵のサブウーファーと2つのフロントスピーカーのみで構成される、非常にシンプルなホームシアターシステムです。前モデルからフルモデルチェンジを行い、特に新設計のサブウーファーには、側面にダクト部を設ける「ツインダクト構造」を採用して重低音のエネルギーを効率的に放出できる構造を実現しました。核となるフロントスピーカーには、上級ピュアスピーカーで開発したスピーカーユニットを搭載して緻密な再生能力を追求。音まで薄くなりがちな薄型テレビの課題をクリアして、人の声が聞き取りやすく、また今まで聞こえていなかったような効果音なども実感していただけるでしょう。デジタル放送、ブルーレイディスク最高品質のHDサラウンドに加えて、新モデルでは3D映像伝送に対応し、またシンプルなシアター環境を実現するオーディオリターンチャンネル(ARC)対応や、多彩な機器接続を考えたHDMI入力システムの増加など、音だけではない使いやすさも含めたロングライフ仕様をさらに強化しました。

IMAGINATIVE SIGHT & SOUND

ONKYO®

プレスお問合せ先 オンキヨー株式会社 国内マーケティング課 山本誓一 TEL.03-3548-1590

写真画像はこちらから www.jp.onkyo.com/news/newproducts/ の「オーディオ」より

当製品をクリックください

掲載時のお客様お問合せ先 オンキヨーコールセンター TEL.050-3161-9555



HTX-22HDX

2.1chホームシアターパッケージ

オープン価格 3月31日発売予定

- オーディオリターンチャンネル／3D映像対応「HDMI ver.1.4」端子搭載
- ブルーレイディスクのHDサラウンドに対応。「Dolby TrueHD」、「DTS-HD Master Audio」デコーダー搭載
- グランド電位の安定化技術、特許技術回路「VLSC」など培われた音質技術を投入
- リスニングアングルの調整も可能な高品位バーチャルサラウンド機能「Theater-Dimensional」
- TV画面で設定可能なオーバーレイOSDを採用
- 臨場感を深める豊かな低域再生、新設計「サイドスリットダクト」
- ゲームの音楽を迫力あるサウンドで再生「4 Game mode」搭載 ※1
- 主要メーカーのハイビジョンTVとシステム連動、HDMI端子を活用した「RI HD」機能 ※2

実用最大出力	30W×5ch(6Ω、JEITA)+60W(3Ω、JEITA)
サブウーファー	16cmコーン
フロントスピーカー	フルレンジバスレフ型 8cm OMFコーン
HDMI端子(Ver1.4)	入力:3 出力:1
音声入力端子	デジタル3、アナログ2
最大外形寸法	アンプ内蔵サブウーファー:W217× H337× D310mm フロントスピーカー:W101× H161× D111mm
質量	アンプ内蔵サブウーファー: 9.5kg フロントスピーカー:0.7kg(1台)
付属品	リモコン

センタースピーカー、サラウンドスピーカーの出力端子を装備していますので、別売オンキョースピーカーを3個接続して、よりリアルな5.1ch環境にシステムアップしていただくことも可能です。

※1 使用時には5.1chサラウンド環境が必要になります

※2 連動動作する他社対応機種 パナソニック製ビエラリンク対応テレビ「ビエラ」およびDVDレコーダー「ディーガ」、東芝製レグザリンク対応テレビ「レグザ」、シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」(2008年4月以降の機種)との接続による連動動作

主なテクノロジー

3D時代まで見据えた、最先端「HDMI ver.1.4」

HTX-22HDXは、HDMIの最新規格「HDMI ver.1.4」を搭載し、3D映像伝送とオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応しました。情報量の多い3D映像を伝送するためには、新しいバージョンのHDMI規格が必要になります。オンキヨーは、3Dテレビや3Dブルーレイディスクプレーヤーが広がる将来を見据えて、映像と音の上質な3Dシアターを楽しめる先端仕様を採用しています。HTX-22HDXは、3つのHDMI入力端子を装備していますので、現在から将来にわたってさまざまな機器を接続できるロングライフ仕様となっています。

また、HDMI ver.1.4の基本機能であるARCは、従来テレビのチューナー音声をホームシアター機器に出力する場合、テレビの光デジタル音声出力からホームシアター機器に光ケーブルを接続する必要がありましたが、通常とは逆の流れ、TV→ホームシアター機器へHDMIケーブルで伝送できるため、対応するテレビとHDMIケーブル一本の接続だけで、よりシンプルなサラウンド環境を構築できます。



ブルーレイディスクの高精細なHDサラウンドに対応

最大でDVDの約10倍もの容量をもつブルーレイディスクには、より情報量の多い高密度な映像や音声データを収録することが可能です。ブルーレイディスクのソフトが普及するに連れて、この大容量を活かした高品位、高精細な音声規格「Dolby TrueHD」、「DTS-HD Master Audio」で収録されたソフトが増加しています。この音声規格は、圧縮前のデータに完全復元できる画期的な「ロスレス」方式で、従来の圧縮・復元方式とは一線を画し、これまでのデジタルサラウンドの音場効果をはるかに超える濃密でリアルなサラウンド再生を可能にしています。

小型シアターセットでの採用はまだ多くはありませんが、ブルーレイディスクがより身近になる将来を見据え、HTX-22HDXにはこのブルーレイディスクのHDサラウンドに対応したデコーダーを搭載しています。

もちろん、DVD-Videoや地上・BS・CSデジタル放送に採用されている「ドルビーデジタル」「DTS」「AAC」といった音声規格にも対応していますので、デジタルサウンドをフルにお楽しみいただけます。



主なテクノロジー

高度な設計技術で1筐体に

HTX-22HDXはシンプルな音響システムにするために、サウンドアンプをサブウーファーに内蔵して1つの筐体にしてはいますが、決して音質を無視した設計はしていません。アンプ、サブウーファーそれぞれの本来の実力を発揮できるように緻密な設計配慮を施しています。アンプ部とサブウーファー部を「二つのコンポーネント筐体」と想定して、一つのケース内に各ブロック同士が音質的な干渉を与えないように設計を進め、キャビネット自体は共振に強い肉厚の素材を採用し、しっかりとウーファーユニットやアンプブロックをマウントするよう取付け方法にも工夫を凝らしています。また信号経路は可能な限り短縮化し、ノイズ干渉を受けないような合理的な配線を施しました。これらの細部にわたる配慮により、ブルーレイディスクやデジタル放送に収録されたセリフや効果音のきめ細かなニュアンスが実感できるようになります。



オーディオマインドあふれる高品位なアンプ回路

ブルーレイディスクやデジタル放送に収録された音声データを忠実に再生する上で、スピーカーを駆動するアンプの役割はとても重要です。HTX-22HDXのアンプ部には、スピーカー駆動力を高めるための大型電源コンデンサーを採用し、信号処理のレベル基準(グラウンド電位)の安定化を図る極太の銅バスプレート、デジタル機器固有のノイズを大幅に除去する「VLSC」回路など、培われた音質技術も惜みなく投入しています。一般的な日本の住環境では、周囲への音漏れに気を使うケースが多いと思われませんが、小音量時でも音が聴き取りにくならないように「オプティマムゲイン・ボリューム」を採用して実用性にもこだわりました。



主なテクノロジー

こもりのないスピード感あふれる重低音再生

一口に低音と言っても、映画における爆発音や衝撃音と、ライブコンサートのバスドラムのアタックやコントラバスの低音弦の響きでは全く違った印象を受けることでしょう。こうした繊細なニュアンスを忠実に表現できれば、その場にいるような臨場感はより深まります。HTX-22HDXのサブウーファー部分には、低音の量感だけでなく、生々しい疾走感や音程まで表現できる性能を求めました。キャビネット内で発生した空気振動エネルギーを放出するダクト部は左右に設けた、「サイドスリットダクト構造」を採用。エネルギーを効率的に外部に放出できるようになり、映像の動きにシンクロしたスピード感あふれる重低音再生を実現します。



本格ユニットを搭載したスピーカー

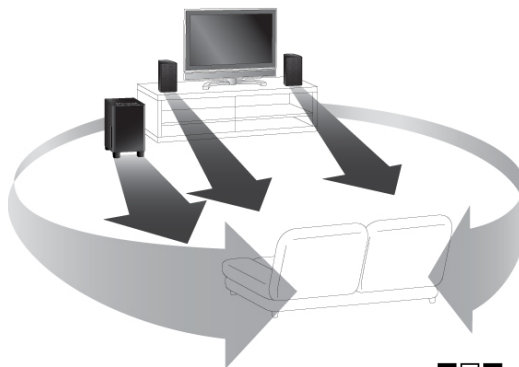
昨今、幅の広いワイド画面で観賞されているケースが増えています。左右の音のスケールが小さくなると、空間の広がりや物足りなくなってしまう。音楽再生でもいえることですが、左右のフロントスピーカーの品質は極めて重要です。そのためHTX-22HDXのフロントスピーカーは、上級スピーカーと同じように左右独立構成とし、培った設計ノウハウを細部まで投入して、小型サイズでも画面の外まで広がりを感じられるようなつくりを目指しました。オンキヨーはスピーカーの心臓部と言われるスピーカーユニットを、楽器でいう弦に当たる振動板の素材開発から行うことにこだわり、本機でもこの設計理念をもとに開発された「OMF」振動板を搭載しています。またスピーカーキャビネットについては、側面をラウンドさせることで内部での不要な共振の発生を防ぎ、音の明瞭さを高められるようにしました。音楽やバーチャルでの実使用時に満足できるような品質を求めて、本格的な仕様にこだわりました。



主なテクノロジー

フロントスピーカーだけでバーチャル5.1ch音場を

フロントスピーカーだけで構成する音響システムは、導入しやすい手軽さが魅力ですが、いかに前方のスピーカーでしっかりとしたサラウンド感を演出できるかが鍵となります。HTX-22HDXでは、高級AVセンターで開発されたバーチャルサラウンドDSP技術、「Theater-Dimensional」(シアターディメンショナル)を搭載しました。後方の奥行きや、スピーカーを設置していない前面中央からも映画再生に重要なセリフやヴォーカルをリアリティ豊かに再生するバーチャルサラウンド機能です。




Theater-Dimensional

TVのリモコンでシアターがシステム連動

使いやすく音質に優れた高品位なシアター環境を追求して、ハイビジョンTVなどとシステム的に連携動作するRIHD機能を装備しています。HDMI端子を搭載し、その高品位な伝送技術を活用。電源スタンバイ連動や自動入力切換え、TVのリモコンによる本機のボリューム調整とテレビスピーカー/シアタースピーカーの再生切換えが働く機能を実現しています。また東芝製レグザリンク対応テレビ「レグザ」との組み合わせでは、独自のコントロールコマンドによりHDMI入力拡張切換への操作も可能です。

RIHD

※連動動作する他社対応機種 パナソニック製ビエラリンク対応テレビ「ビエラ」およびDVDレコーダー「ディーガ」、東芝製レグザリンク対応テレビ「レグザ」、シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」(2008年4月以降の機種)との接続による連動動作

TV画面で設定できる。オーバーレイOSD

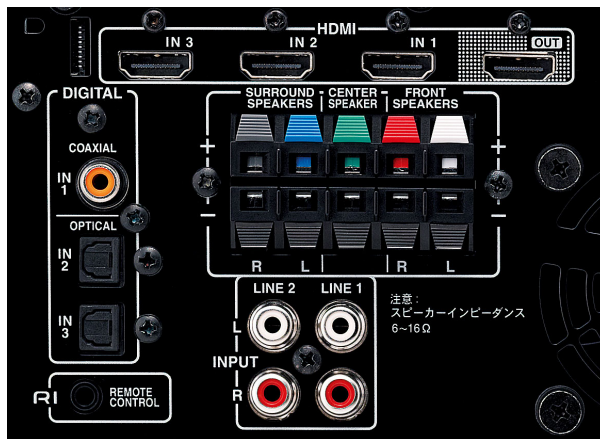
テレビ番組や映画ソフトを観賞しているときに、設定メニューをTV画面に呼び出して変更できる「オーバーレイOSD」を採用。本体の表示部分ではなく、大きな画面上で確認できるようになりますので、ストレスの少ない操作環境で楽しんでいただけます。



主なテクノロジー

さまざまな機器と接続できる豊富な入力端子

HTX-22HDXには、外部機器と接続する入力端子を豊富に装備して、将来にわたる発展性を備えた仕様になっています。オンキヨーの多彩なオプション群との接続も、楽しみをさらに広げます。たとえば別売りのiPodトランスポート(ND-S1)を組み合わせれば、iPodの音声データをこれまで一般的だったアナログからデジタルで伝送できるようになり、iPodの音楽ライブラリをリッチなサウンドで演奏。しかもRI接続により、HTX-22HDXのリモコンでiPodの音楽ライブラリの再生、曲送りなどの主要操作やインプットセクターの自動切換えなどシステム連動が可能です。一度ご購入いただいたオンキヨー製品を長くお楽しみいただくために、オプション群も含めた全製品にわたってロングライフコンセプトを徹底しています。



多彩な用途に対応するオリジナルサラウンドモード

お好みに合わせて様々なタイプのサラウンド音声を楽しんでいただけるよう、オリジナルサラウンドモードを充実。映画やスポーツ、音楽ライブなどに適したモードに加えて、特にゲーム中の使用に適した設定として4モード(スポーツ、ロック、アクション、RPG)を用意しました。
※オリジナルサラウンドモードの使用には、5.1chサラウンド環境が必要になります

増設用スピーカーもラインナップ

HTX-22HDXとデザインや音色を揃えた増設用のセンタースピーカー(写真左)とサラウンドスピーカー(同右)も発売いたします。HTX-22HDXには5.1ch分のアンプを内蔵していますので、スピーカーの増設によって、より立体的で臨場感の深まる5.1chサラウンド環境へシステムアップすることも可能です。



センタースピーカー D-22XC(B) オープン価格
サラウンドスピーカー D-22XM(B) オープン価格/2台1組
4月24日発売予定

商標について ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブルD 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。DTS はDTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、およびDTS-HD Master Audio ,DTS Surround Sensation はDTS 社の商標です。レグザリンク、レグザは株式会社東芝の商標です。AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。その他の名称については、一般に各開発メーカーの商標または登録商標です。